

No. 9

家庭教育シリーズ

最近、叱り
下手や、見当違
いのほめ方をす
るお母さんが増
えています。

2、3の事例
を紹介します。

おねしよをし
た子どもをよく
叱るお母さんが
います。子ども
は自分からおね
しよをしたくて

しているわけではありません。
だから叱っても効果がないば
かりか、子どもを萎縮させる
だけです」

「おねしよを直したいと思う
のなら、しなかった時にほめ
てあげて自信を持せる方が有
効だと思います。『今日は偉
かったね、しないと気持ち
が良いでしょう』くらいの語り
かけが良いのです。

又小学二年生の子を見て、
「おりこうね、お顔を一人で
洗えるの偉いわねとほめた」
そのことは悪い事ではない
が、一人で顔を洗えることを
ほめるのが適当なのは幼児期
(二、四才)まででしょう。
次に、木登りをしている子

におばあちゃんが、

「まあまあ、元気がいいね、
頑張ってもっと高い所まで登っ
てごらん」と声を掛けた。子
どもは大得意で、期待に応え
ようと、アタックの開始です。
そこへ、お母さんの声、

「なにしているの、そんなこ
としちゃ危ないでしょ、早く
降りなさい」これでは、子ど
もは大混乱してしまいます。

子どもが小さいうちは、ほ
めながら、生活の基本的習慣
を身につけさせようとすること

ほめることのむずかしさ

とが多いようです。

しかし、少々大きくなりま
すと、ほめたからといって、
必ずしも効果が出てくるも
のではないのです。

問題は、その「成功経験」
から、更に次の新たな目標に
向かって努力することにある
のです。それをどのようにし
て生かしてゆくかということ
にかかっています。『よか
たね、これが出るなら、今

度は、もう少しむずかしいこ
ともやれるネエ」と、次の経
験を求めて努力し、進歩して
ゆくように、新たな動機づけ
となっているところに意味が
あります。ただ結果だけでは
めてはいけません。

そこで、ほめる時は「心か
らほめる」態度のなかに、母
親としての人間的愛情が現わ
れてこなければならぬので
す。このためにも次の様なこ
とに注意してください。

(一)子どもの素質的なものは、

ように与えれば良いというも
のではないのです。次のよう
な教育的配慮をすることが必
要です。

(一)知能の程度を考えること。

知能の高い子どもであれば
叱り方が激励になっているよ
うにすることです。低い子ど
もは、ちょっとした事でもほ
めるように努めることです。

(二)性格を見つめること。
内向的な、神経質的な子ど
もは、叱るよりもほめた方が
良い。どうしても時は、静

かに言って聞かせること。
外向的な子どもには、ほめ
るより、強い叱り方が良い場
合が多いようです。

(三)性差の違いを考えること。
男の子には、下手なほめ方
をするよりも、叱る方が良い
ようです。女の子は叱るより
もほめてさせる方が効果的
です。

このように、基本的には子
どもに「やる気」を起こさせ

るようにすることです。

「ほめられたい」という子ど
もの「愛情欲求」をかなえる
ことのできるお母さんは、す
ばらしいお母さんです。とか
く叱る言葉が多いが、ほめ言
葉は少ないようです。

しかし、親としては、ほめ
る材料をさがし得ることが出
来ないと、しつづけをむ
ずかしくさせているように思
われてなりません。

ほめる努力をしないで、気
軽に叱っているようです。

心から本心にほめることの
できるお母さんになりたいも
のです。

家庭教育指導員

大木 國臣

